

♪ 鎌仲ひとみ監督作品

# 小さき声のカノン

— 選択する人々



鎌仲ひとみ監督  
ご来場!!

2016年7月30日(土)

会場 伝国の杜置賜文化ホール大会議室

〒992-0052 山形県米沢市丸の内1丁目2-1 2F

入場料 前売り券 1000円

当日券 1200円

## 【プログラム】

午前の部 9時30分 開場 10時~12時 上映①  
12時~13時 鎌仲監督を囲んでフリートーク&マルシェ

午後の部 13時 開場 13時30分~15時30分 上映②  
15時30分~16時30分 鎌仲監督のトーク

- マルシェでは、西日本有機農法のお野菜などを販売いたします。
- お子様連れでもお気軽におこしく下さい♪保育あり。
- お昼は各自になります。会議室でも食べられます。フリートークはお茶付き♪



上映会  
in 米沢

チケットのお問合せ 平日 9:00~17:00 TEL 070-1143-1166 長沢  
メールでもお申込み OK です! Mail aozoratakenoko@gmail.com

主催 NPO 法人青空保育たけの子

# 子どもたちに いま 必要な「保養」とは？



## 鎌仲ひとみ監督作品

### 小さき声のカノン — 選択する人

福島、そしてチェルノブイリ後のベラルーシ。

国境を越え、母たちは、“希望”を選択し、自分たちの足で立ち上がった。

福島原発事故後、事故による影響は安全である・危険であるといった議論はあるが、その影響を受けた場所で、懸命に生きようとしている人々がいる。そんな人々の本当の声は聞こえているのだろうか。チェルノブイリ原発事故は、福島の事故よりも25年も前の事だが、今なおその影響が続いていることは、実は知られていない。かつてチェルノブイリ原発事故を経験したベラルーシでは、子どもたちに何が起きているのか。お母さんたちは、どうやって子どもを守ろうとしたのか？ 日本のお母さんたちと同様、不安を抱いたお母さんたちが大きな声に流されることなく、自分たちの直感にしたがって子どもたちを守る道を探し続けている。事故の衝撃に立ちすくみ、ただ困惑している時期は過ぎた。希望を具体的に作り出す新しいステージに今、私たちは立っている。迷いながらも日本のお母さんたちが自分たちの意志で動き始めた。

そんなお母さんたちの小さな声が、国境を越えて響き始める。



## 映像作家 鎌仲ひとみ監督 プロフィール

早稲田大学卒業と同時にドキュメンタリー映画制作の現場へ。

90年最初の作品「スエチャおじさん」を監督、同年文化庁の助成を受けてカナダ国立映画制作所へ。93年からNYのペーパータイガーに参加してメディア・アクティビスト活動。95年帰国以来、フリーの映像作家としてテレビ、映画の監督をつとめる。主にNHKで「エンデの遺言—根源からお金を問う」など番組を多数監督。2003年ドキュメンタリー映画「ヒバクシャ—世界の終わりに」を監督。国内外で受賞、全国400ヶ所で上映。2006年「六ヶ所村ラプソディー」は国内外800ヶ所で上映。

2010年「ミツバチの羽音と地球の回転」も全国600ヶ所での上映に加え、フランス・ドイツ・オーストラリア・インド・アメリカ・台湾など海外でも上映が進んでいる。2011年度全国映画祭賞・監督賞受賞。

2012年DVD「内部被ばくを生き抜く」発売開始。国内外800ヶ所で上映。2014年現在、新作「小さき声のカノン—選択する人」を撮影中。

多摩美術大学非常勤講師。著作に「ヒバクシャ—ドキュメンタリーの現場から」「六ヶ所村ラプソディー—ドキュメンタリー現在進行形」共著に「ドキュメンタリー—力」「内部被曝の脅威」「今こそ、エネルギーシフト」「原発の、その先へ—ミツバチ革命が始まる」など。